



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel: 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



日本の家庭料理で交流

笠原 以津子・小野田 正子

ロシアの方々に日本料理の講習会をという千葉さんの提案に、友人の小野田正子さんを紹介いたしました。小野田さんは、栄養士でありながら、和裁、書道、和太鼓と多才です。長年仕事での縫製をお願いしてきましたが、いつも臨機応変に素早く対応してくれるので安心してお任せしました。



当日は、料理の説明と実演からスタートしましたが、5グループに分けた調理場では、私達がフォローする必要もない程ロシアの皆さんお上手に調理。途中から笑い声も出てきて、和やかに進みました。白和えの調味料を混ぜる時のすり鉢が珍しいのでしょうか、ずっとずっと混ぜてる方もいらっしゃいました。また、今回大使館のシェフが参加されましたが、調味料の練り胡麻の瓶をまじまじとご覧になったり、また、お手伝い大活躍の方の情報によりますと、白和えに入れる胡桃の荒みじんと、カットが卓越過ぎてパウダー状の胡桃になっていたとか・・・そういう私は、最初の海苔のカットを間違え、ご飯の量も多過ぎ巨大な海苔巻きになってしまいました。家に持ち帰ってドキドキしながらカットした時、ちゃんと花形になっていて感激しました。同じ材料、同じレシピで作るのに作り手の個性が出る・・・これは友禅と全く同じです。楽しいですね。料理は持ち帰りでしたが、山岸さんが生けてくださった素敵なお花の前で、シェフ特製の美味しいケーキを頂き、至福の一時も味わえました。準備が大変だったと思いますが、料理作りを楽しませてくれた小野田さん、次は和菓子教室もお願いしたいです。山岸さん、名島さん、名島さんお嬢様、渡邊さん、千葉さん、そして通訳のオクサーナさん、お忙しい中を本当にありがとうございました。小野田さんに感想を伺いましたのでご紹介いたします。(理事)

今回、友人の笠原さんよりお話があり「わあ～楽しそう」とすぐに引き受けました。よく考えると私などが海外の方に料理の講習など開催なんて大丈夫かしら、と不安になりましたが、笠原さんという心強い友人が一緒ということで、私自身楽しませて頂くことにしました。通訳の方がいらっしゃる講座は初めてで戸惑いもあり、皆さんのフォローを十分にできなかったと反省しております。

それでも皆さん楽しそうに海苔巻きを作ったり、野菜を切ったりして下さり、無事に終了。何よりでした。

残念なのは、試食して頂いての皆さんの感想が聞けなかったということです。終わってから、参加者の方のお誕生日でロシアのケーキを頂く機会に恵まれ感激です。テーブルにはお花が飾られ、和やかな雰囲気の中、初めて口にしたロシアのケーキ、大変美味しくいただきました。最初からいろいろアドバイスくださった笠原さん、そして通訳のオクサーナさん、各テーブルで細やかにすり鉢の使い方、調味料の説明などしてくださった方々に感謝したいと思います。そして何よりも今回の講座に参加していただいた皆さん、ありがとうございました。

お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらかでも結構です。

松村賢弥氏にご協力頂きました。ありがとうございます。
振込先: 郵便口座00160-9-66486、加入者: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail: nichiro@nichiro.org
Tel: 03-5563-0626 Fax: 03-5563-0752

お知らせ

●テーマ別ロシア語「おもてなしロシア語」8

日時: 2021年5月30日、6月13日、6月20日(日) 13:30～16:00

場所: 田町リーブラ、多目的室1

講師: オクサーナ・ピスクノワ

授業料: 会員7,000円 一般8,000円

●ロシア料理講習会

日時: 2021年5月16日(日) 10:00～12:00

場所: 田町リーブラ、料理室

内容: なす巻き、魚のマリネ、ワレニキ

会費: 2,500円

*参加は原則会員の方のみとさせていただきます、人数制限しマスク着用、消毒、換気に留意して実施しています。

*エプロン、布巾、持ち帰り用の容器をご持参ください。

申込み、連絡先: 日口交流協会事務局

E-Mail: nichiro@nichiro.org Tel: 03-5563-0626

●ロシア語クラス生徒募集中!

初級(金曜18:30～19:30) 中級(月曜18:00～19:00)

ゼロからクラス(月曜19:15～20:15)

*緊急事態宣言の間はオンラインクラスになります。宣言解除後は事務所で少人数で実施し、消毒、パーテーション等で十分配慮しておりますが、受講の皆様はマスク着用、換気、手洗い等、ご協力をお願いいたします。プライベートレッスンも実施しておりますので、ご希望の方はご相談ください。
コルド・ナターリア(初～中級)、イローナ・パルフェノワ(中～上級)、タチヤナ・スニコ(初～上級)、ウラジミール・ポロビエフ(初～中級)、オクサーナ・ピスクノワ

●第72回マトリョーシカ絵付け教室

日時: 2021年5月23日(日) 13:30～16:00

場所: 田町リーブラ2階造形表現室

会費: 3,000円(お好きな教材1セット含む)

ウズベキスタン便り

寺尾 千之

大崎さんご夫妻が、地元の子どもの声に応えてNORIKO学級をリシタン市に創設したことは、よく知られています。実は「設立動機にはもう一つ大きな理由があります」と「明日の友」(婦人の友社'02年137号)に、奥様の紀子さんが記しています。「夫は現地で手入れの行き届いた日本人墓地を見て、ウズベク人の温かい気持ちに感謝の念が湧いた」とあり、国内に8か所あると言われている日本人墓地のうち、タシケント、コカンド、アングレンの墓地(写真はコカンドの日本人墓地)を、よく訪れ「今、平和に過ごせるのは皆さんのお陰です。皆さんの死を無駄にしないよう努力します」と墓前にお線香を手向けていたということです。

実際、重勝さんは、学級運営の傍ら、関係者から聴きとった内容を頻繁に知らせてくれていました。ガニシエル校長の従兄(1946年生まれ)が、お母さん(コカンド在住)から聞いた話として「コカンドは古い町(スタリー・ゴラド)が中心で新しい町(ノービー・ゴラド)を建設中であった。みなさんはノービー・ゴラドの建設に従事されたようです(陸橋・銀行の建設)。日本人は大変頭が良い、だからグループで住んでいて井戸を掘り電気まで起こしていた(どんな発電機かは不明です)。当時、ソ連兵の上級者のみが靴を履いていた、一般人は、履き物はなかった。日本人は木で履き物を作った(下駄だと思います?)」。



当時、道は舗装されてなく小砂利が敷いてあった、だから朝と夕方に並んで仕事場への行き帰りに『カラン・カラン』と音がする、と母たちは時計代わりに時間が分かったと言っていた。一般家庭に、井戸・時計・電気等はなかった田舎町だった」(’01年受信、原文のまま)や、アングレンから帰還された石川県七尾市在住の元看護兵の話として「戦友を埋葬している時にロバに乗ったじ

いさんが来た。『何をしているか?』『友を埋葬している』『そうか』と言ってロバから降りてひざまずいて、お祈りをしてくれた。終わるまで続けてくれた。なんとやさしい民族なんだろうと思った」(’01年受信、原文のまま)など、貴重な内容でした。

1966年のタシケント地震の際、多くの建物が倒壊した中、無傷だった建物として有名なナボイ劇場(1947年完成)のプレートに、ロシア語・ウズベク語・英語・日本語で「数百名の日本国民が建設に参加し、その完成に貢献した」との一文があります。そのプレートの前で記念撮影をする日本人観光客を見かけることが多いです。一方、抑留者と交流があった各地の地元民は、大家族で暮らす中で、彼らの子孫に「日本人は頭がいい。勤勉だ」と折に触れて当時の様子を語り継いでいるようです。

日本とウズベキスタンの友好交流の原点は、抑留者との心温まる交流や、敬意の気持ちにあったのかもしれない。

(リシタン・ジャパンセンター事務局長)

国際放送史研究の戯言No.012

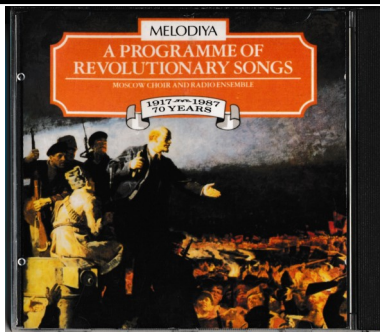
自由で優しい「インターナショナル」

島田 顕

ピエール・ドジェイテール作曲「インターナショナル」。いわずと知れた革命歌である。パリ・コミューンの最中に生まれ、世界中で歌われるようになった。ロシア革命後には新生社会主義国家の国歌となる。だが第二次世界大戦中にソ連国歌が改められ、「インターナショナル」は党歌として残された。この歌が日本に伝えられると、戦前のプロレタリア演劇の中心的な演出家だった佐野碩が歌詞を訳し、その訳詞が日本中で歌われるようになった。ちなみに佐野碩は1930年に日本国内で逮捕され、翌年国外に脱出、32年に演出家マイエルホリドを頼り入ソ、スターリン粛清により38年にソ連を追われ、メキシコに亡命する。以後、終生日本に帰国することなく、メキシコの近代演劇運動に大いに貢献した。

この歌のことを書きたいと思った。先日NHK・BSPの番組「クラシック倶楽部」で、作曲家の武満徹の編曲による「ギターのための12の歌」の演奏を耳にしたからだ。この演奏は、アイルランド民謡「ロンドンデリーの歌」に始まり、ガーシュインの「サマータイム」、中田章の「早春賦」や、ビートルズの「ミッシェル」「ヘイ・ジュード」「イエスタデイ」が続き、「インターナショナル」によって締めくくられた。

この歌を初めて知ったのは大学に入ってからのこと。肩を組んで、みんなで歌うのが常だった。また大学に近い神田神保町のロシア専門レコード店で、第一曲に「インターナショナル」が入っているレコード『レーニン愛唱歌集』を買った。「イン



ターナショナル」のロシア語の歌詞カードがコピーでついていて、それでロシア語の歌詞を初めて知った。レコードはロシアのレコード会社メロディアによるもので、後にメロディアのCD版も手に入れた。大学卒業後のスペイン旅行で、スペイン語の「インターナショナル」が入ったカセットテープを購入した。横浜中華街の中国語レコード店では、中国語の『中華人民共和国国歌 国際歌』のカセットが売られていて、中国語でも「国際歌」として歌われていることを知った。

「インターナショナル」は常に勇ましく歌われなければならない、という先入観があった。だが武満徹の「インターナショナル」はギターの演奏曲。何て自由なんだろう、と思った。そしてそれは他のギター曲と同様に、優しい曲調だった。

実際のインターナショナルは、マルクス・エンゲルスの第一インター、世界の社会民主党の集まりである第二インターを経て、第三インター＝コミンテルン(共産主義インター)が結成されたが、コミンテルンは「民主集中制」という組織原理を採用したために、自由で活発な意見交換を認めない硬直した組織となった。暴力革命を肯定し、逸脱を許さず、粛清を行った諸悪の根源は「民主集中制」だったのだ。

武満徹の「インターナショナル」は、未来のインターナショナルがギター曲のように、自由で優しいものでなければならないということを、暗示しているように思えた。

《モスクワ・アラカルト64》

成田新勝寺橋本照稔大和尚遷化によせて

日向寺 康雄

2月18日、成田山新勝寺の橋本照稔貫首が遷化された。世寿96歳だった。氏は、日本人に広く愛されるこの仏教寺院を18年余にわたり指導し、生涯を通じ世界平和と信徒の平安を祈念、中興第21世の尊称にふさわしく不動信仰の大きい発展に尽くされてきた。また成田が日本の空の表玄関である事から国際文化交流にも慈眼を注がれた。これは対口交流についても全く例外ではない。

私は以前よく、通訳兼付添としてロシア人アーティストの日本公演を手伝ったが、成田ではいつも橋本妊壽奈(たすな)夫人が中心となって活動するユネスコ協会の皆さんに一方ならぬお世話になった。特にモスクワ音楽院の若いピアニストやヴァイオリニストを連れて行った時などは、美しい着物を着せて頂いたり習字に挑戦したり琴の演奏を楽しんだり日本文化を体験する興味深く中身の濃いイベントを催して頂いた。若く好奇心旺盛な彼らにとって、それがどれほど日本理解の役に立ったかは言うまでもない。

一方ロシア側は、御礼に学校やゲストハウスでミニコンサートを開いたのだが、そうした折には必ず、柔和な笑顔で見守る貫首様のお姿があった。若い頃から、音楽や俳句、書などに親しまれた氏は、文化を通じて培われる精神性の豊かさに着目され、中でも人と人との絆を育てる合唱活動に熱い情熱を注がれた。そして日頃から「真の平和とは互いを知ることから始まる。音楽は、宗教や文化の偏見なく理解できるものであり、世界平和実現の第一歩である」とおっしゃり「合唱によって育まれる相互理解や慈し



みの心が、国を越えた友好の輪となって広がってゆくよう強く願っておられた」(月刊『智光』4月号より抜粋)。その意味で2015年秋、ピャトニツキイ記念ロシア国立アカデミー民族合唱団の元主要メンバー4名が特別に集まり光輪閣で卒寿をお祝いするコンサートができたことは、私達にとって小さな恩返しと言えるものだった。

今でも忘れられないが、貫首様はロシアの若い音楽家達の率直な問いに、いつも誠意をもって応えられた。「素晴らしい演奏ができるなら、時に悪魔に魂を売ってもいいと考えてしまう時がある」と言うピアニストには「人間は常に一つのところにとどまらず変ってゆく。今君がそう悩んでいる事こそがとても大切なのです」とおっしゃった。「死んだらどこに行くのでしょう」との不安を口にしたヴァイオリニストには「この身体から魂が抜けて宇宙を旅するのです」と答え、天文学の驚くべき科学的知識を示された。そばで懸命に拙い通訳をしながら私は「この方は日本が誇る智と心の巨人なのだ」とつくづく思ったものである。

大和尚は今頃、宇宙のどの辺を旅され、私達を照らして下さっているのだろうか？お不動様の御縁に深く感謝すると共に、ご冥福を心からお祈り致します。なお本葬儀は、5月22日(土)11時から新勝寺光輪閣で執り行われる予定。写真撮影ニキータ・プラトーノフ2018年稚児行列で。(元モスクワ放送チーフアナ、現中央及び早稲田大学非常勤講師)

大和尚は今頃、宇宙のどの辺を旅され、私達を照らして下さっているのだろうか？お不動様の御縁に深く感謝すると共に、ご冥福を心からお祈り致します。なお本葬儀は、5月22日(土)11時から新勝寺光輪閣で執り行われる予定。写真撮影ニキータ・プラトーノフ2018年稚児行列で。(元モスクワ放送チーフアナ、現中央及び早稲田大学非常勤講師)

「Strawberry fields forever」

野口 久美子

弊社株式会社日露サービスでは、いくつかのマイクロ農業投資プロジェクトを行っている。昨年新型コロナウィルスの影響で大きく変化したビジネス環境により、ロシア等からの投資案件をオンラインで検討や会議ができるようになったことは大きい。

農学部出でもない私が敢えて何故「農業投資」であるかといえば、会社設立以前に参画したプロジェクトの多くは在ロシア日本大使館建設プロジェクトを始め、多岐に渡る分野の技術関連プロジェクトであり、そのうちの一部は非常に興味深いロシア語圏との農業プロジェクトであった。特に契約から工場竣工まで担当させて頂いた、ロシア極東での完全人工光型植物工場プロジェクトは、ロシア極東の農業における課題と今後のニーズを深く学ばせて頂いた思い出深い仕事であった。プロジェクト実施地が、かつて私が勤務していたロシア国営ラジオ局のあったハバロフスクであったことは、相手方にも大変好意的に迎えられた。一方、ある組織からの依頼の農業プロジェクトは、日本側のロシアに対する理解が今一つで芳しい成果は無かった。やはり、日本側の地域情勢への理解はプロジェクトの成功を左右する。ロシアは、なおさらである。またロシア語で直接交渉や契約締結が出来る語学力も極めて重要である。ロシア語に限らず、外国語が出来すぎて損をすることは、断じてない。

そして昨年12月、弊社はロシア極東のある地域で農業従事者といちご栽培プロジェクトに関する投資契約を締結し、現地のいく

つかの報道機関でも報道されるに至った。私の祖先とロシアとの絆が95年を迎えるにあたり、個人的にもゆかりの深いロシア極東での農業交流を実現することができたことに満足している。運命のパートナーは、お子さんが4人もいらっしゃるロシア人女性だ。私も女性、年齢も近いので理解し合えるポイントが多いのも決め手になった。個人的な経験から言えば、ロシアとの事業は先方の「人柄」によるところが大きい。そのような主観的要素に依拠して良いのだろうか。当然、良いに決まっている。最後は「人」であり、同時に我が国への深いリスペクトのあるパートナーでなければならない。

種苗法の改正で、多くの日本産品種の種子や苗を栽培目的で国外に出すことは禁止され、いちごも例外ではないが、弊社のプロジェクトでは日本産品種の栽培は計画していないので、影響はない。現在の計画では、今年8月に苗の定植作業を開始し2022年6月に最初の収穫が実現するだろう。収穫に立ち会う日が、今から待ち遠しい。

目まぐるしく変わる世界情勢とその余波に晒され続ける日露関係に翻弄されず、このささやかないちご畑が長く存在する事を願って、我々の”Strawberry fields forever” 大作戦は新しいポストコロナの日露関係の発展を目指してスタートを切った。

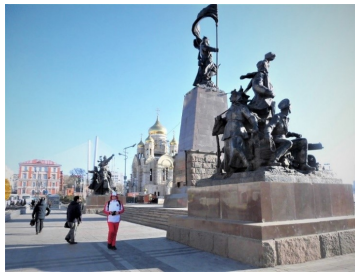
我々の今後に、どうぞ御期待下さい。

(理事・(株)日露サービス代表取締役)

ウラジヴォストークの中国人

畔上 明

東（ヴォストーク）を領有する（ウラジェーチ）という言葉が都市名となっているウラジヴォストーク。この美しい港町は日本に最も近いロシアであることから、近年観光客の増加が見込まれ2017年からは電子ビザが適用されました。僅か2時間の飛行でヨーロッパの街並みに接することが出来ると注目を浴び、S7航空やアエロフロートの系列であるオーロラ航空等のロシアの飛行便のみならず2020年からは日本航空と全日空も運航便が加わる目前のコロナ禍です。



脚光を浴びる期待が止まってしまった現在、ここ30年の間ウラジヴォストークへ8回渡航した私的な思い出を顧みると、訪れる毎に印象が大きく変化していった街であることを感じます。

太平洋艦隊の拠点として20世紀後半は閉鎖都市であったウラジヴォストーク、ソ連邦崩壊直後1992年に外国人に開放されたと知るや当時モスクワに駐在していた私は勇んで東へと飛んだのでした。ビザ申請時に滞在都市を記載しそれ以外は訪問不可といった規制が無くなるという時代の流れを喜んでいただけに、ウラジヴォストークに到着した途端一時代前に戻ったかの如くビザ上への都市名特記の必要を告げられた時の戸惑い。役所で手続きを済ませるためまずは到着の朝から夕べまでを費やす忌々しさ。湾内には廃船寸前の軍艦が沈みかけ、気まずい光景があるから閉鎖都市としていたのではと勘繰りたくもなったものでした。

歴史を紐解くと、唐の東北部の隣国であった渤海、その後の契丹人の遼、女真族の金、そして元、明、清の領域となり、1860

年の北京条約によって漸くロシアが沿海州を清から獲得、20世紀初頭には国際都市の様相を呈し中国人街ミリオンカ、朝鮮人居留区、日本人町などがロシア開発都市の中に併存していました。

マフィアの拳銃発砲や硫酸事件などを耳にした90年代半ば頃迄の暗いイメージは近年次々払拭され、家庭訪問で知合った一家と交流が続いた思い出、歴史を探り知識が膨らむにつれ、そして又趣向を凝らした商店や洒落たレストランと次々に出会うにつれ、2019年牧阿佐美バレエ団の極東マリインスキー劇場での公演ツアーでの訪問に至る迄、街への親しみは段階的に高まっていったのでした。

2017年「飛鳥II」が寄港することとなり迎入れの手配を請負いその準備の為数日滞在した時には、手配提携先、港湾関係、食事場所、土産店、訪問先各所を四方八方巡り連日2万歩3万歩と至るところ坂ばかりの道を歩き回ったものでした。愈々船客を迎える朝には足が疲弊し、靴を外すと何と底がペラペラと外れてきているのではないですか。その無様な姿を目にしたタクシードライバーが「橋を越えると中国人が座っている」と言います。偶に見かける北朝鮮人のこと？ 或いは新時代のビジネス出張者？ キョトンとしている私を乗せたタクシーは金角湾にかかる黄金橋を渡り掘立小屋の前で停車、そこには恰も仙人の様な白髭の中国人が座っていたのです。太い針と糸とでアッと言う間に靴を修理してくれた腕利きの老人は正に魔法使い。お陰様で足取り軽く豪華客船へと向かうことが出来たのでした。

(「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー)

岐阜かがみがはら航空宇宙博物館のロシア連携

中平 大

岐阜県各務原市の中心に広がる各務原台地は、古くは「各務野」と呼ばれ、耕作に適さない地として、長らく手付かずとなっていました。その地が、現在14.7万人が暮らす街へと発展するきっかけとなったのは、1912年に陸軍各務原飛行場（現在の航空自衛隊岐阜基地）が、日本で2番目の飛行場として開設されたことによります。1922年には、川崎造船所飛行機部各務原分工場（現在の川崎重工業株式会社岐阜工場）が開設され、戦前、戦中には、1万数千機の航空機が生産されました。これ以降、各務原市には航空宇宙産業が集積し、今日、事業所数と従業員数ともに全国第2位の航空宇宙の街となっています。

これを背景に、地域の成り立ちや航空宇宙産業に携わる人々の営み、思いを広く後世にまで伝えるため、岐阜県と各務原市は、「岐阜かがみがはら航空宇宙博物館」を設置し運営しています。

岐阜かがみがはら航空宇宙博物館（愛称：空宙博（そらはく））では、2018年3月のリニューアルオープン以降、世界と肩を並べる博物館を目指し、航空宇宙分野の先進各国の博物館と、所蔵展示物、資料の貸借、学芸員の交流、活動の相互PR、企画展の共同開催などの連携を進めています。特に、宇宙先進国であるロシアとは、サンクトペテルブルク歴史博物館、モスクワ宇宙飛行士記念博物館、K. ツィオルコフスキー記念宇宙飛行史博物館の3館と連携しており、最も連携先の多い国となっています。

ロシアの各博物館との連携や日口交流の促進を図るため、空宙博では、本年3月20日から5月17日までの約2か月間、「空宙博の日」イベント特別企画展として、「ユーリ・ガガーリン物語」を

企画しました。ガガーリンは、言わずと知れた人類初の宇宙飛行士です。ガガーリンがボストーク1号に搭乗し、宇宙飛行を行ったのは1961年4月、今年はそれから60年となります。企画展では、ガガーリンの生涯と最新の宇宙開発情報について、貴重な写真や映像、ボストークロケットやファルコン9ロケットの模型などとともに紹介し、その偉業を讃えています。

特別企画展にあわせた講演会では、空宙博アンバサダーで宇宙飛行士の山崎直子氏による「有人飛行60周年に際して」とした講演のほか、専門家によるロシアの宇宙開発についての講演だけでなく、ドストエフスキーやロシアSFといったロシア文学についての講演を企画しました。また、ロシア文化を体験してもらえるよう、空宙博館内にて、マトリョーシカの絵付け作成体験やロシア民謡のミニコンサートを行い、併設のカフェではボルシチやピロシキを期間中の特別メニューとして提供するなど、ロシアへの関心や親しみを持つ一助となればと、様々な事業を企画しました。

空宙博では、ロシアの博物館と連携し、今後も魅力ある展示、企画に取り組みます。皆さま、ぜひ一度、岐阜かがみがはら航空宇宙博物館にお越しください。（各務原市産業活力部商工振興課航空宇宙博物館運営推進室室長）

*交流協会では、かがみがはら航空宇宙博物館の特別展に関わるロシア民謡のコンサートの手配をお手伝いした。また、ロシア連邦交流庁からの呼びかけで、ガガーリン飛行60周年記念の資料や写真を新潟県庁で展示を了承してもらったり、JAXAの協力も得て市役所等への協力を仰いだ。